

等のために、平成9年9月1日から休日昼間の9時から17時までの時間帯において、県内5フロクの救急指定病院輪番制による精神科救急医療システムの整備を図っている。かかりつけ病院に相談したが、休日で受診ができない場合などに当番病院での入院や外来診療が可能となるもので、平成12年度の実績としては、24か所の救急指定病院の対応総件数が590件で、そのうち外来受診件数は324件、入院件数は133件であった。

平成13年度の夜間精神科救急医療体制の整備については、現在、新潟県精神科救急医療システム連絡調整委員会において後方支援病院のあり方も含め、体制整備に向け検討を行っているところである。

第47回新潟大腸肛門研究会

日時 平成13年6月2日(土)
午後3時～午後6時
場所 ホテルディアモント新潟

I. 一般演題

1 大腸癌における p73発現とその臨床病理学的意義

劉 莉莉 崔 星
佐々木正貴 須田 武保 (新潟大学)
畠山 勝義 (第一外科)
坂口 武夫 (同 第一生理)

92例の大腸癌患者を対象とし、手術摘出標本のp73発現を解析し臨床病理学的因子との相関を調べた。p73発現を2様式(small expression, 0-50%)、large expression, >50%に群分類すると、small expressionが78%となった。P73の発現様式は腫瘍の部位、大きさ、程度、段階とは相関せず、腫瘍の再発性で有意な相関を示した。

更に、発現様式と生存期間との間では優位な相関が判明し、large expression群はより短い生存期間となった。結果は、P73は癌の再発に關与すること、P73の解析が術後の臨床経過の予測に有用である可能性を示している。

2 大腸・直腸粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡診断

船越 和博 新井 太
小堺 郁夫 本山 展隆
秋山 修宏 加藤 俊幸 (県立がんセンター)
小越 和栄 (新潟病院内科)
太田 玉紀 (同 病理)
斎藤 征史 (斎藤内科 消化器科医院)

超音波内視鏡(EUS)を施行した大腸・直腸粘膜下腫瘍(SMT)23例(大腸6例、直腸17例)について検討した。カルチノイド10例、平滑筋腫3例は全例直腸病変で、他に脂肪腫1例、リンパ管腫4例、血管腫1例、線維腫1例、結核性腸管壁内石灰化肉芽腫1例、診断未定2例であった。19例(82.6%)がEUSにて診断され、2例が内視鏡切除(EMR)、手術にて診断された。EMR症例8例は全例カルチノイドで、手術症例は直腸線維腫1例、カルチノイド2例であった。カルチノイドではEUSにて粘膜下層が確認でき、固有筋層の圧排所見がなく、10mm以下の症例はEMR可能であった。EUSは大腸・直腸SMTの局在および質的診断、治療方針の決定に有用である。

3 Pain Clinicによる直腸肛門痛の治療経験

吉田 鉄郎 飯塚 正仁 (医療法人誠心会)
笹口 政利 (吉田病院外科)
木村 亮 (同 麻酔科)

当科には直腸肛門痛を訴える患者が多く来院する。然し激しい慢性の痛みを訴え乍ら原因となる病変が全く認められていない患者もおり、私はこれを(1)突発性直腸肛門部痛とし、更に既往に直腸肛門部に何等かの手術を受け、手術創は充分治癒しているにも拘らず、慢性の疼痛に悩まされておるものあり。これを(2)直腸肛門部術後痛と名